

平成30年度 事業報告

事業の概要

本年度の事業の概要は次の通りであります。

1、研究助成(公募)

公衆衛生の向上及び生活環境の保全を促進させる。
研究や活動を行っている個人又は団体に対し助成金を支給
今年度は下記のテーマに関連する研究を助成対象としました。

①「感染症及び外来生物」

- ・募集期間 4月～12月
- ・応募件数 26件
- ・助成支給件数 22件 (100万円/件)

「外来生物セイヨウオオマルハナバチの侵入に伴った内部寄生性微生物の毒性進化」

東京農工大学 講師 井上真紀

「双翅目昆虫サンショウバエの殺虫剤抵抗性分子機構の解明」

東京大学大学院 助教 三條場 千寿

「僻地における蚊の捕集トラップ用誘因装置の実用化への模索」

防衛医科大学 助教 江尻寛子

「日本のコウモリから分離されたヨコセウイルスを媒介する節足動物の特定」

国立感染症研究所 流動研究員 小林大介

「ニホンジカの増加に伴うマダニ媒介リケッチア症「日本紅斑熱」の感染拡大の分析」

東京大学 准教授 鈴木 牧

「重症熱性血小板減少症候群ウイルスの病原因子NSsとマダニ因子間の相互作用の解析」

広島大学大学院 助教 小田康祐

「Bt菌殺蚊トキシンを利用する持続利用可能な蚊防除システムを構築するための基礎研究」

岡山大学大学院 助教 早川 徹

「病原体伝播におけるマダニ卵黄タンパク質前駆体の機能解明」

帯広畜産大学 助教 白藤梨可

「雌の蚊が血液を吸う理由の解明」

岡山大学大学院 准教授 石川哲也

「蚊あるいはヒトが放出する他感作物質の同定とこれを母核とする新規忌避化合物の創成」

長崎大学 准教授 川田 均

「マダニのインターフェロン様物質の発見とウイルス持続感染機構の解明」

岐阜大学 助教 内田祥子

「山口県内におけるダニ媒介性細菌感染症の疫学的調査研究」

山口大学 准教授 高野 愛

「外来アリにみられるスーパーコロニー性の再検討:その特性と起源の解明」

千葉大学 准教授 菊池友則

「節足動物媒介性ウイルスに対する媒介蚊のコントロールに向けた基礎研究」

国立感染症研究所 主任研究官 佐々木年則

「訪花昆虫相における病原体Nosema属微孢子虫の系統解析と腸内細菌叢との関係解明」

岐阜大学 教授 土田 浩治

「アライグマ等の外来野生動物がマダニ媒介性感染症に与える影響」

日本獣医生命科学大学 大学院生 土井寛大

「日本におけるパブロフスキーマダニの侵襲状況と保有病原体の解明」

国立感染症研究所 主任研究官 新倉 綾

「感染症を媒介する節足動物に対する誘引物質もしくは忌避物質の探索研究」

広島大学大学院 教授 杉山政則

「熱帯亜熱帯植物由来のベクター昆虫制御剤の探索」

広島大学大学院 教授 松浪勝義

「イエカ属特有の性決定遺伝子の特定」

国立感染症研究所 研究員 糸川健太郎

「SFTSウイルス由来vDNAを指標にした新規マダニ疫学調査法の開発」

東京慈恵会医科大学 助教 山地佳代子

「共生細菌叢をコントロールすることによる有害昆虫駆除技術開発」

広島大学大学院 特任准教授 野田正文

2、シンポジウム開催

- ・「デング熱媒介蚊～生物学から防除対策まで夏季の国際的なスポーツ大会開催に備えて」と題しシンポジウムを開催した。

日時 平成30年7月13日 13時より

場所 ベルサール八重洲「ルームA」

参加人数 約150名

3、奨学金事業

公衆衛生の向上や生活環境の保全を進める人材育成のため、国内の大学院生とアセアン諸国からの留学生に対し奨学金を支給した。

- ・平成30年4月より奨学生6名に月額5万円給付実施